DEBUT 首長

愛知県小牧市長　山下　史守朗氏

やました・しずお　1975年愛知県小牧市生まれ。立命館大学卒。自由民主党愛知政治大学院で学んだ後、2003年愛知県議会議員当選し２期つとめる。11年２月小牧市長に当選。妻、２人の子と４人暮らし。35歳。

市民税10%分の事業を行革 減税せず福祉など重点分野へ

愛知県小牧市　名神・東名・中央の各高速道路の結節点に位置する物流や製造業の拠点。中部国際空港稼働までは市内の名古屋空港（現在は県営名古屋空港）が中部地区の空の玄関だった。人口15万3400人。

――選挙戦マニフェストでは「改革と創造」を訴えた

「子や孫の世代まで考えた未来に責任の持てる政治」という信条を実現するためには、今が新風を吹き込む最後のチャンスだと考えた。改革へのチャレンジ精神と若さへの期待が評価を得たと受け止めている。

特に３つの優先課題がある。第１が持続的な経済発展を支える政策。市の経済振興策と財政政策をバランスよく展開し、愛知県北部の中核都市として競争力を高める。第２の課題は地域福祉の充実。地域での支え合い精神を引き出す施策は欠かせない。往診医師や24時間ホームヘルパー、介護ボランティアなどを普及させ、在宅で安心して暮らせる環境を整備する。

３つ目の課題は自治改革だ。基本は自分たちの地域には自分たちで責任を持つ姿勢。そのため市長が市民のために常にチャレンジし続けられる体制を整えなければならない。「市政戦略本部」を立ち上げて、首長主導の改革エンジンとしての機能を与える。同時に市民と民間の公益代表、有識者らを交えた「市政戦略会議」を設ける。

――名古屋市の河村たかし市長をはじめ、地方議会に改革を求める首長が増えている

中央集権を打破するには、地方行政、地方議会、地域社会の改革を「三位一体」として推進しなければならない。議会には、執行部批判にとどまらず自らの行動への責任を取る意識を高めてもらいたい。マニフェストには自治のあり方を自分たちで規定する「自治基本条例」の制定と、議員定数の３分の２への大幅削減の提案を盛り込んだ。私は決して議会不要論者ではないが、馴れ合いや前例踏襲の悪弊が続くようなら、議会は存在意味を問われかねないと思う。

改革の第一陣として市民税10%分の行革を断行したい。河村市長が叫ぶ「10%減税」とは全く違う。減税だけをアピールする政治はポピュリズム（大衆迎合）につながりかねない。市民参加による事業仕分けや、民間で先行する事業評価などの手法を駆使して、行政を透明化して無駄遣いを徹底して省く。

――節約できた行政経費は、減税に充てないのか

10%分の行政改革効果は、時代の要請に応えるための重点政策に振り向ける。福祉や子育て、教育、公共交通の充実などがこの分野に該当するだろう。無駄な経費を不可欠な支出に回した上で、それでも不足する事態もありえるが、将来への希望や安心づくりこそ重要との視点で、熟議して納得を得た上で、税負担の引き上げをお願いすることもあり得るだろう。

（聞き手は
主任研究員　**若杉　敏也**）

（初当選した首長の抱負を聞きます）

禁複製・無断転載